

チェック!

早期の検査と対策で 導入牛の下痢を予防しよう



今回のテーマは
コクシジウムによる
導入牛の下痢対策
についてです。

肉牛の肥育農家で導入した牛が下痢をしてお悩みの方も多いのではないのでしょうか。草が変わった、気候に慣れていないなども下痢や軟便の原因となりますが、導入後決まった時期に群全体が下痢や軟便になる場合には、コクシジウムの集団感染の可能性があります。今回は、下痢の原因をクリニック検査で明らかにし、改善した事例をご紹介します。

●下痢が見つかったらすみやかに検査を

くみあい飼料の担当者から、全農のクリニック担当者に相談がありました。内容は「肉牛肥育農場で導入後の下痢が頻発しているのでは何とかならないか」というものでした。早速担当者と農場を訪問して状況を聞き取ったところ、以下のような状況でした。

- ・ 導入後3週間ほどではほぼ全頭が下痢をする。
- ・ コクシジウムを疑い、*サルファ剤を飼料添加で投与するが治らない。
- ・ サルファ剤が効かないのでコクシジウム以外の原因があるのではないかと?

導入して約1ヵ月が経過した牛房では、写真①、②のような下痢便が確認されました。ともに水様便とまではいきませんが、かなりゆるい泥状便です。写真②ではイチゴジャムのように血液が混ざっています。便の状態や発生状況から、やはりコクシジウムが疑われました。確認のため、この2種類の下痢便を検体としてクリニックセンターで検査しました。その結果が表1です。コクシジウムの感染のほかに、寄生虫の卵も確認されました。発生状況や検査結果から、下痢を発症するまでの流れは以下のように想像されました。

- (1)農場にはコクシジウムの卵（オーシストといいます）が大量にある。
- (2)導入した素牛がコクシジウムに濃厚感染する。
- (3)2～3週間程度の潜伏期間の後、下痢をする。寄生虫はコクシジウムの下痢を悪化させる。
- (4)下痢をした牛は食欲が落ち、サルファ剤を飼料添加しても十分な量のサルファ剤を摂取できない。
- (5)下痢便にはオーシストが大量に含まれており、農場のコクシジウム汚染がひどくなる。

(6)次に導入した素牛もコクシジウムに濃厚感染して下痢をする。

●下痢の発生率を減らす対策を

そこで、以下の対策を実施したところ、下痢の発生は目に見えて減りました。

- ・ 敷料交換を月3～4回に増やす：オーシストは丈夫です。悪いもの（オーシスト）は農場からどんどん取り除かなくてはなりません。
- ・ 新しい敷料を入れる前に消石灰を散布する：消毒をして牛舎を衛生的にします。
- ・ 敷料を厚く敷く：牛に快適な環境をつくれます。今までの2倍が理想ですが、現実的などころで1.5倍に増やしました。
- ・ サルファ剤を投与する：下痢が多発して食いが落ちる前にサルファ剤を飼料添加します。
- ・ 導入時に駆虫する：背中にかけるタイプの駆虫薬を使います。コクシジウムと混合感染して悪さをする寄生虫を退治しておきます。

コクシジウムの種類によって潜伏期間は異なりますが、いつも決まって導入後何週目に群全体が下痢をする、といった場合にはコクシジウムが悪さをしているかもしれません。下痢便を検査してほぼすべての便にコクシジウムが確認される場合には、今回紹介した対策を実施してみてください。ただし、サルファ剤の長期使用や大量使用は牛の腎臓に負担がかかります。投与にあたっては獣医とよく相談してください。



写真①下痢便



写真②血液の混じった下痢便

表1：下痢便の検査結果

	コクシジウム	寄生虫卵	そのほかの病原体 (サルモネラなど)
写真①	+	+	-
写真②	+	+	-

*裏表紙に用語解説